

## 尾津かんがい用水の取水口 6月18日 (主管 広報部)

“社協あたご”に連載中の「愛宕の歴史シリーズ」について

次回第56号は、「尾津かんがい用水の取水口」をテーマとする予定である。このため去る6月18日、吉本部長、末岡副部長、弘中の3名が、牛野谷取水口及び尾津ハス田において、錦川の水が灌漑用水として使われていることを現地確認するとともに写真撮影を行なった。当該灌漑用水は、開作(干拓)と表裏一体のものであり、愛宕の歴史上からも重要な位置づけをなすものであることを理解した。

なお、以下の灌漑用水に関する記述については、郷土をこよなく愛されておられたお二方の著書の一部を引用させていただいた。

I 昭和49年5月30日発行 著者:大岡 昇氏  
「郷土岩国のあゆみ」

開作は藩のいのち  
愛宕地区の干拓

- 1) 吉川広家入封(慶長7年 1602年)以前、
  - ・ 門前地区は洲が陸地化し集落あり。
  - ・ 尾津・天地方面は一面の海である。

2) 藩後期の干拓

- ・ 藩営の菊池開作・天地開作  
一の割から十の割に至る約130町歩、  
高1200石  
(文化6年 1809年～文化7年 1810年)
- ・ かんがい用水(牛野谷～尾津)長さ24町余  
を掘る。  
(文化7年 1810年)

II 昭和49年12月10日発行  
著者:浜田喜一氏  
「郷土愛宕の歴史と風水害の記録」

- ・ 門前地区のみは、吉川氏入封以前すでに  
洲が陸地化し、相当の集落ができていた。  
しかし、尾津から天地にかけては、藩初期ま  
では、山ぎわまで一面の海であって、今こ  
こに開けている数百町歩に及び耕地は、すべ  
て藩政時代の干拓に成るものである。

- ・ 文化6年 1809年  
門前・尾津沖口開作起工

- ・ 文化9年 1812年  
門前龍ヶ鼻に水門造営  
これより尾津開作へ用水路を掘る。  
(当時龍ヶ鼻は門前川まで山がせり出して  
いた。)



牛野谷にある錦川からの取水口 (上方は岩国城)

尾津かんがい用水  
現在は右の配管より弁を開けることにより  
ポンプアップされた用水が出ます。

